

中小企業等の研究開発力向上及び実用化推進のための支援事業

平成22年度予算：9.0億円

事業目的・概要

中小企業等が単独では対応できない高度な技術課題解決に向けた共同研究とその実用化を促進し、新たな市場を創出するため、先端的・独創的な優れた技術を有する中小企業等が、大学・公的研究機関等との共同研究によって、新製品や新技術の実証又は性能評価を行う事業について、共同研究に要する費用を補助する。

事業内容

<対象事業> 実用化によって、環境・エネルギー、健康・医療等の社会的課題の解決や地域経済の活性化、新産業・雇用創出等の経済波及効果が期待できるテーマに係る評価・実証研究。

<補助対象者> 中小企業等（中小企業者、大企業）及び公的研究機関等（大学、高専、地方独立行政法人、地方公共団体の試験研究機関等）。

<事業期間> 1年

<募集区分> ①中小企業型：公的研究機関等と中小企業者のみから成る研究体で事業を行う場合。

補助率：2/3、補助金額：800万円～3000万円

②一般型：公的研究機関等と大企業から成る研究体で事業を行う場合。

補助率：1/2、補助金額：800万円～5000万円

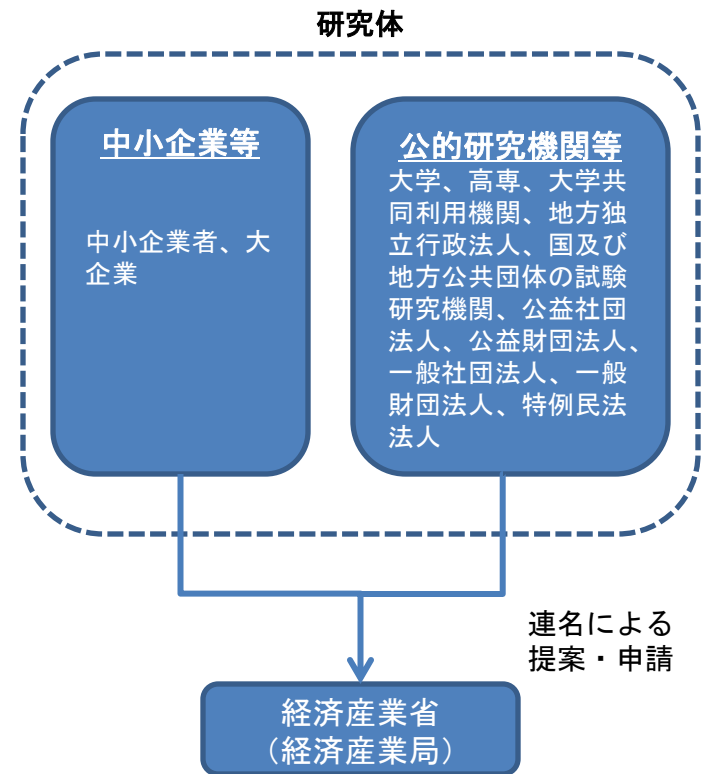
※中小企業者が含まれている研究体であっても、大企業が1社以上参加する場合は、全て一般型。中小企業者のみから成る研究体は一般型への応募は不可。

公募スケジュール

公募期間：4月23日（金）～5月28日（金）

採択公表：7月26日（月）

提案・申請スキーム



※技術研究組合も補助対象者となる。組合において中小企業等と公的研究機関等が共同研究を行う場合は、組合名での単独申請が可能。

<参考> 中小企業等と公的研究機関との共同実証研究による実用化イメージ

軽量で曲面への設置が可能な太陽電池の開発

A 社

高度な薄膜加工技術を培い、電子機器材料分野に進出

**材料メーカー・
装置メーカー等**

高機能フレキシブル基材、
フレキシブル基材用製造
装置技術の開発

共同研究

公的研究機関

無機機能膜形成技術を用いたフレキシブル太陽電池の試作と性能評価

製造技術の開発と
性能評価

フレキシブル太陽電池



太陽電池の軽量化。
こわれにくく曲面への設置
が可能。

<効果>
太陽電池の大量普及による
省エネ・CO2排出減

<メリット>

コンソーシアム型共同研究を通じて、**公的研究機関の試作ラインや技術を利用でき**、各社の強みを活かした新産業創出が可能。

高温環境が不要な産業機械用潤滑剤の開発

B 社

産業機械用の常温潤滑剤を開発

共同研究

公的研究機関

公的研究機関の材料試験機等を利用し**検査・実証**

評価
性能向上

冷間塑性加工用潤滑剤



大手自動車メーカーの
プレスラインに採用。
プロセスやスペースを
大幅に短縮。

<効果>

- ・部品1個あたりの
コスト削減
- ・加工プロセス減による
省エネ・CO2排出減

<メリット>

評価データだけでなく、**公的研究機関の技術指導によって評価手法を身につけた**点が大きなメリットになった。